

動物看護学科  
2年課程  
3年課程

授業科目	動物形態機能学				
	対象学科	開講時期	必修・選択	授業形態	単位数
	看護3年課程	1年次 (通年)	必修	講義	4
担当教員	山岡 弘二				
実務経験歴	食肉衛生検査所、衛生研究所で試験検査業務に38年間従事				
授業目的	動物の生命体としての細胞、組織、臓器レベルで理解し、病的変化を学ぶ。				
達成目標	動物の体の構造と機能を理解修得する。				
授業時間外に必要な学修	日常、身近な動物に触れて、健康な動物の体型等を理解しておく				
テキスト	動物のからだの構造と機能/編集：動物看護コアテキスト編集委員会/株式会社ファームプレス				
参考書					
成績評価(割合)	ノートチェック(10%)、小テスト(10%)、期末試験(70%) 態度(10%)				学習
授業内容とスケジュール					
1回(2コマ)	動物固体の発生等		16回(2コマ)	動物の呼吸器構造等	
2回(2コマ)	動物細胞の構造等		17回(2コマ)	動物肺でのガス交換等	
3回(2コマ)	動物細胞の分裂等		18回(2コマ)	動物の上部消化器	
4回(2コマ)	遺伝子の仕組み等		19回(2コマ)	動物の下部消化管	
5回(2コマ)	動物細胞膜の役割等		20回(2コマ)	動物の膵臓構造と機能	
6回(2コマ)	動物神経細胞・中枢神経		21回(2コマ)	動物の肝臓構造と機能	
7回(2コマ)	動物神経細胞・末梢神経・ミニテスト		22回(2コマ)	動物の心臓構造等・ミニテスト	
8回(2コマ)	動物の特殊感覚		23回(2コマ)	動物の血液循環	
9回(2コマ)	動物の内臓感覚		24回(2コマ)	動物の腎臓構造	
10回(2コマ)	動物の骨形状。構造等		25回(2コマ)	動物の腎臓機能等	
11回(2コマ)	動物の関節と働き等		26回(2コマ)	動物の皮膚構造・機能	
12回(2コマ)	動物の筋肉の種類等		27回(2コマ)	生体防御のしくみ	
13回(2コマ)	動物の筋肉の働き等		28回(2コマ)	ホルモンの種類	
14回(2コマ)	動物の主な骨格筋名称・ミニテスト		29回(2コマ)	ホルモン調整・ミニテスト	
15回(2コマ)	期末試験・まとめ・振り返り		30回(2コマ)	期末試験・まとめ・振り返り	
備考	授業中の私語、スマホ使用禁止				

授業科目	動物病理学				
	対象学科	開講時期	必修・選択	授業形態	単位数
	看護3年課程	2年次（前期）	必修	講義	2
担当教員	山岡 弘二				
実務経験歴	食肉衛生検査所、衛生研究所で試験検査業務に38年間従事				
授業目的	動物疾病の中で、様々な疾病が組織や臓器にもたらす変化、病態について学ぶ。				
達成目標	動物疾病の成り立ちと回復、促進に関する知識を修得する。				
授業時間外に必要な学修	日頃から、身近にいる動物の健康状態を観察しておく。				
テキスト	動物の疾病と予防および回復/編集：動物看護コアテキスト編集委員会/株式会社ファームプレス				
参考書					
成績評価(割合)	ノートチェック（10%）、小テスト（10%）、期末試験（70%）学習態度（10%）				
授業内容とスケジュール					
1回	動物病理学とは何か				
2回	疾病による生体反応と成り立ち				
3回	疾病による生体の回復力				
4回	疾病による細胞、組織に生じる変化				
5回	疾病による細胞増殖と修復				
6回	疾病による循環傷害①水腫・充血とうっ血				
7回	疾病による循環障害②出血と止血等・ミニテスト				
8回	疾病による炎症①原因と役割等				
9回	疾病による炎症②急性炎症				
10回	疾病による炎症③慢性炎症				
11回	疾病による免疫反応				
12回	疾病による免疫応答の異常				
13回	腫瘍とは何か				
14回	先天異常・ミニテスト				
15回	期末試験・まとめ・振り返り				
備考	授業中の私語、スマホ使用禁止				

授業科目	動物薬理学				
	対象学科	開講時期	必修・選択	授業形態	単位数
	看護3年課程	2年次(通年)	必修	講義	2
担当教員	山岡 弘二				
実務経験歴	食肉衛生検査所、衛生研究所で試験検査業務に38年間従事				
授業目的	動物疾病の診断、治療に用いる薬物の体内動態と作用機序、臨床応用、副作用等を学ぶ。				
達成目標	動物疾病の成り立ちと回復に寄与する薬物の知識を修得する				
授業時間外に必要な学修	日常から薬局等で購入したみじかな薬物について、その薬理作用等を調べておく。				
テキスト	動物の疾病と予防および回復/編集：動物看護コアテキスト編集委員会/株式会社ファームプレス				
参考書					
成績評価(割合)	ノートチェック(10%)、小テスト(10%)、期末試験(70%) 学習態度(10%)				
授業内容とスケジュール					
1回	薬物治療の概念	16回	神経作用薬①中枢神経薬		
2回	薬物の取り扱い	17回	神経作用薬②末梢神経薬		
3回	薬物治療の目的	18回	呼吸器作用薬		
4回	薬理作用	19回	循環器作用薬①血管拡張薬		
5回	薬物動態	20回	循環器作用薬②強心薬		
6回	薬用量の計算方法	21回	循環器作用薬③抗不整脈薬		
7回	消毒薬・ミニテスト	22回	泌尿器利尿薬・ミニテスト		
8回	殺虫薬	23回	消化器作用薬①制吐薬等		
9回	抗菌薬①βラクタマーゼ系薬等	24回	消化器作用薬②止瀉薬等		
10回	抗菌薬②テトラサイクリン系薬	25回	消化器作用薬③肝疾患薬		
11回	抗真菌薬	26回	内分泌薬①オータコイド等		
12回	駆虫薬	27回	内分泌薬②ステロイドホルモン等		
13回	抗腫瘍薬①種類等	28回	血液作用薬		
14回	抗腫瘍薬②作用等、ミニテスト	29回	免疫系作用薬・ミニテスト		
15回	期末試験・まとめ・振り返り	30回	期末試験・まとめ・振り返り		
備考	授業中の私語、スマホ使用禁止				

授業科目	動物感染症学				
	対象学科	開講時期	必修・選択	授業形態	単位数
	動物看護学科	1年次（前期）	必修	講義	2
担当教員	福田伸治				
実務経験歴	と畜検査・食品衛生行政、感染症調査研究業務に34年従事				
授業目的	細菌、真菌、ウイルス、プリオンおよび寄生虫・原虫の分類と特徴、人の主な感染症について学修する。				
達成目標	微生物および寄生虫の特徴と人の主な感染症を理解する。				
授業時間外に必要な学修	テキストおよび配布プリントを利用し、單元ごとの内容を予習復習する。				
テキスト	動物看護コアテキスト動物の疾病と予防および回復3/動物看護コアテキスト編集委員会/ファームプレス、配布プリント				
参考書					
成績評価(割合)	期末試験（100%）で評価する。				
授業内容とスケジュール					
1回	微生物とは①				
2回	微生物とは②				
3回	細菌とその特徴①				
4回	細菌とその特徴②				
5回	真菌とその特徴				
6回	ウイルスとは、プリオンとは				
7回	ウイルスの特徴				
8回	寄生虫・原虫とその特徴				
9回	人の主な細菌感染症				
10回	人の主なウイルス感染症				
11回	人の主な真菌感染症				
12回	人の主な寄生虫感染症				
13回	人の主な原虫感染症				
14回	全体のまとめ				
15回	期末試験・総評・振り返り				
備考					

授業科目	動物感染症学				
	対象学科	開講時期	必修・選択	授業形態	単位数
	動物看護学科	1年次（後期）	必修	講義	3
担当教員	福田伸治				
実務経験歴	と畜検査・食品衛生行政、感染症調査研究業務に34年従事				
授業目的	感染症と感染のしくみ、動物の主な細菌感染症、真菌感染症、ウイルス感染症、寄生虫・原虫感染症、免疫とそのしくみ、ワクチン、検査法、感染症法、感染症の予防法などを学修する。				
達成目標	疾病の成り立ちとその予防。治療法を理解する。				
授業時間外に必要な学修	テキストおよび配布プリントを利用し、單元ごとの内容を予習復習する。				
テキスト	動物看護コアテキスト動物の疾病と予防および回復3/動物看護コアテキスト編集委員会/ファームプレス、配布プリント				
参考書					
成績評価(割合)	期末試験（100%）で評価する。				
授業内容とスケジュール					
1回	感染症とは		16回	感染症法	
2回	感染のしくみ		17回	その他の感染症に関する法律	
3回	犬猫の主な細菌感染症①		18回	感染症の予防	
4回	犬猫の主な細菌感染症②		19回	院内感染の予防	
5回	犬猫の主な真菌感染症①		20回	免疫のしくみ①	
6回	犬猫の主な真菌感染症②		21回	免疫のしくみ②	
7回	犬猫の主なウイルス感染症①		22回	アレルギーとは	
8回	犬猫の主なウイルス感染症②		23回	ワクチン①	
9回	犬猫の主な寄生虫感染症①		24回	ワクチン②	
10回	犬猫の主な寄生虫感染症②		25回	感染症の診断、バイオセーフティ	
11回	産業動物の主な感染症		26回	感染症の検査法	
12回	実験動物、野生動物の主な感染症		27回	滅菌消毒法	
13回	犬猫の感染症の演習①		28回	全体のまとめ①	
14回	犬猫の感染症の演習②		29回	全体のまとめ②	
15回	犬猫の感染症の演習③		30回	期末試験・振り返り・総評	
備考					

授業科目	動物関連法規				
	対象学科	開講時期	必修・選択	授業形態	単位数
	動物看護学科	1年次(前期)	必修	講義	2単位
担当教員	大津 晴男・福田 伸治				
実務経験歴	【大津】種の保存法・動物愛護管理法・外来生物法等に係る諸手続き。42年従事 【福田】と畜検査・食品衛生行政、感染症調査研究業務に34年従事				
授業目的	法規について学んで、将来の職業人としてのコンプライアンスの重要性を認識する。また、多発する動物関連事件について、その法的理解をする。				
達成目標	各法律等について学び、法律により動物たちや私たち、また、自然界が保護されていることを学ぶ。				
授業時間外に必要な学修	多発する動物に関連する事件についてメディアから情報を集め、事件の本質について考える。				
テキスト	動物看護コアテキスト第1巻人と動物の関係/編集：動物看護コアテキスト編集委員会/株式会社ファームプレス				
参考書	配布資料				
成績評価(割合)	期末試験(80%)、学習態度(20%)で総合的に評価する。				
授業内容とスケジュール					
1回	動物の愛護及び管理に関する法律				
2回	絶滅のおそれのある野生動植物の種の国際取引に関する条約				
3回	絶滅のおそれのある野生動植物の種の保存に関する法律				
4回	鳥獣の保護及び管理並びに狩猟の敵視化に関する法律				
5回	特定外来生物による生態系等に係る被害の防止に関する法律				
6回	特に水鳥の生息地として国際的に重要な湿地に関する条約				
7回	生物多様性基本法				
8回	狂犬病				
9回	民法、刑法、個人情報保護法				
10回	と畜、鳥類、化製				
11回	食品、飼料、ペットフード				
12回	薬機法、薬物劇物、廃棄物の処理及び清掃に関する法律、手洗い、衛生				
13回	身体障害者補助犬法				
14回	愛玩動物看護師法				
15回	定期試験・まとめ・総評				
備考					

授業科目	公衆衛生学				
	対象学科	開講時期	必修・選択	授業形態	単位数
	動物看護学科	2年次（通年）	必修	講義	2
担当教員	福田伸治				
実務経験歴	と畜検査・食品衛生行政、感染症調査研究業務に34年従事				
授業目的	食品衛生、環境衛生、人獣共通感染症、疫学および滅菌消毒について学修する。				
達成目標	公衆衛生の基本的な内容を理解し、人の健康維持・増進や疾病予防へ応用できる。				
授業時間外に必要な学修	社会生活における健康維持に関する制度や仕組みに日頃から興味を持ち、新聞等を利用して考察をする。				
テキスト	動物看護コアテキスト動物の疾病と予防および回復3/動物看護コアテキスト編集委員会/ ファームプレス、配布プリント				
参考書					
成績評価(割合)	期末試験（100%）で評価する。				
授業内容とスケジュール					
1回	公衆衛生の考え方と概要	16回	環境衛生と動物①		
2回	獣医公衆衛生学の役割と課題	17回	環境衛生と動物②		
3回	国民衛生の動向と制度①	18回	環境衛生と動物③		
4回	国民衛生の動向と制度②	19回	環境衛生と動物④		
5回	国民衛生の動向と制度③	20回	人獣共通感染症①		
6回	食品衛生①	21回	人獣共通感染症②		
7回	食品衛生②	22回	人獣共通感染症③		
8回	食品衛生③	23回	人獣共通感染症④		
9回	食品衛生④	24回	人獣共通感染症⑤		
10回	食品衛生⑤	25回	薬剤耐性菌		
11回	食品衛生⑥	26回	疫学と疾病予防		
12回	公衆衛生行政①	27回	予防接種		
13回	公衆衛生行政②	28回	滅菌消毒		
14回	全体のまとめ	29回	全体のまとめ		
15回	期末試験・振り返り・総評	30回	期末試験・振り返り・総評		
備考					

授業科目	動物繁殖学				
	対象学科	開講時期	必修・選択	授業形態	単位数
	動物看護学科	2年次(前期)	必修	講義	2単位
担当教員	大津 晴男				
実務経験歴	トラ、ヒョウ、クロサイほかの希少野生動物の繁殖に取組む。その内の数種については、国内動物園初の繁殖。42年従事				
授業目的	動物の繁殖生理学、行動学等について学び、飼育下での繁殖について、環境の条件などを考える。				
達成目標	繁殖の生物学を学び、愛玩動物や野生動物を繁殖させる技術を学ぶ。また、遺伝学的に適切な子孫について学ぶ。				
授業時間外に必要な学修	メディアを通じて、希少動物の飼育下繁殖により、どのように種の保存が図られているかを知る。				
テキスト	動物看護コアテキスト第2巻動物のからだの構造と機能/編集：動物看護コアテキスト編集委員会/株式会社ファームプレス				
参考書	哺乳類の進化/遠藤秀紀/東京大学出版会				
成績評価(割合)	期末試験(80%)、学習態度(20%)で総合的に評価する。				
授業内容とスケジュール					
1回	無性生殖と有性生殖				
2回	減数分裂				
3回	精子形成・卵子形成				
4回	排卵の生理学的しくみ				
5回	受精				
6回	発生				
7回	出産				
8回	着床遅延をする動物とその意義				
9回	性転換をする動物とその意義				
10回	配偶行動				
11回	子育てのいろいろな方法①				
12回	子育てのいろいろな方法②				
13回	肉食動物の繁殖戦略				
14回	草食動物の繁殖戦略				
15回	期末試験・まとめ・振り返り				
備考					

授業科目	動物人間関係学				
	対象学科	開講時期	必修・選択	授業形態	単位数
	動物看護学科	1年次（後期）	必修	講義	1単位
担当教員	金江 早智				
実務経験歴	動物看護業務に8年間従事				
授業目的	動物が人間社会で果たしている役割やその背景・歴史を学び、人と動物の関係を理解する。				
達成目標	動物が人に与える影響を理解し、より良い関係を提案できるようになる。				
授業時間外に必要な学修	様々な人と動物の関係を日常的に観察し、それについて考察してみる。				
テキスト	動物看護コアテキスト①人と動物の関係/ファームプレス				
参考書					
成績評価(割合)	期末試験（90%）、学習態度（10%）				
授業内容とスケジュール					
1回	ヒトと動物の関係の歴史、基盤となった学問				
2回	ヒトと動物の関係				
3回	動物がヒトに及ぼす影響				
4回	使役動物と補助犬				
5回	介在動物				
6回	AAA・AAE・AATについて				
7回	実際のAAAについて知る				
8回	子供と動物の関係				
9回	高齢者と動物の関係				
10回	罪を犯した人と動物の関係				
11回	ペットロス				
12回	安楽死				
13回	ヒトと動物の関係の在り方について考える				
14回	まとめ				
15回	期末試験・振り返り・総評				
備考					

授業科目	動物行動学				
	対象学科	開講時期	必修・選択	授業形態	単位数
	動物看護学科	1年次後期	必修	座学	1
担当教員	谷 真由美				
実務経験歴	認定看護師資格を取得				
授業目的	動物本来あるべき姿について学び、診療補助に活かす				
達成目標	犬と猫の行動について学び、実臨床でそれぞれの診療補助に活かす知識を習得する。また、飼い主さんへ適切なアドバイスができるようになる				
授業時間外に必要な学修					
テキスト					
参考書					
成績評価(割合)	期末試験 (5割) ・小テスト (4割) ・授業態度 (1割)				
授業内容とスケジュール					
1回	授業について				
2回	行動学について				
3回	仔犬について				
4回	仔犬の学習				
5回	子猫について				
6回	子猫の学習				
7回	成犬について				
8回	成猫について				
9回	行動学的に見る動物病院での犬の行動				
10回	行動学的に見る動物病院での猫の行動				
11回	学習について				
12回	しつけと行動学				
13回	問題行動について				
14回	講義まとめ				
15回	期末試験・まとめ・振り返り				
備考					

授業科目	動物福祉・倫理				
	対象学科	開講時期	必修・選択	授業形態	単位数
	動物看護学科	1年次(前期)	必修	講義	2単位
担当教員	大津 晴男				
実務経験歴	トラ、クロサイほかの飼育・血統管理。野生動物の飼育に福祉・倫理の観点で健康、行動、繁殖に適した飼育環境整備をする。42年従事				
授業目的	福祉・倫理は動物を取扱うものにとって最も大切なことの一つであり、感覚的なものとしてとらえるのではなく、科学的に解析して理解する。				
達成目標	動物を扱う専門家として、社会の動物福祉・倫理について世論をリードしていく考え方を養う。				
授業時間外に必要な学修	世間で生じる動物に関する事件を動物福祉・倫理の立場から深く考察する。				
テキスト	動物看護コアテキスト第1巻人と動物の関係/編集：動物看護コアテキスト編集委員会/株式会社ファームプレス				
参考書	アニマルウェルフェア 動物の幸せについての科学と倫理/佐藤衆介/東京大学出版会				
成績評価(割合)	期末試験(80%)、学習態度(20%)で総合的に評価する。				
授業内容とスケジュール					
1回	動物福祉・倫理概念				
2回	日本と海外を比較して、歴史的宗教的背景を考える①				
3回	日本と海外を比較して、歴史的宗教的背景を考える②				
4回	産業動物 ニワトリなど				
5回	産業動物 ウシやブタなど				
6回	実験動物 3つのRとは				
7回	実験動物 遺伝子組み換え動物などの問題				
8回	愛玩動物 イヌやネコなどの販売				
9回	愛玩動物 イヌやネコの殺処分ゼロにむけて				
10回	動物園などの展示動物 飼育環境の改善				
11回	動物園などの展示動物 野生動物が本来の行動をとるためにはどうすればいいか				
12回	野生動物 増えすぎたイノシシやシカなどの捕獲と動物福祉・倫理				
13回	野生動物 クマなどとの共存の方法				
14回	動物愛護管理法について				
15回	定期試験・まとめ・振り返り				
備考					

授業科目	伴侶動物学				
	対象学科	開講時期	必修・選択	授業形態	単位数
	動物看護学科	1年次(通年)	必修	講義	1単位
担当教員	大津 晴男				
実務経験歴	ヤギ、ヒツジ、カイウサギ、モルモット、大型インコ、小鳥などを飼育する子供動物園での飼育業務。約5年従事				
授業目的	人の身近で生活する伴侶動物について、人が作り出した特性を理解して、人によるケアが重要であることを学ぶ。				
達成目標	多様な伴侶動物について、それぞれの違いを考えて、適切な飼育管理について理解する。				
授業時間外に必要な学修	学校などで実際に飼育されている動物に触れあう際、問題意識を持ち、接する。				
テキスト	動物看護コアテキスト第4巻動物の行動と健康管理第2版/編集：動物看護コアテキスト編集委員会/株式会社ファームプレス				
参考書	配布資料				
成績評価(割合)	期末試験(80%)、学習態度(20%)で総合的に評価する。				
授業内容とスケジュール					
1回	犬の起源		16回	エキゾチックアニマルとは	
2回	犬種について-洋犬		17回	カイウサギの起源	
3回	犬種について-日本犬		18回	カイウサギの動物学	
4回	犬の生理学・形態学		19回	カイウサギの飼育(設備、餌など)	
5回	犬の行動学		20回	フェレットの分類学	
6回	栄養学と飼育設備		21回	フェレットの動物学	
7回	犬の健康と福祉		22回	フェレットの飼育(設備、餌など)	
8回	猫の起源		23回	モルモットの分類学	
9回	品種		24回	モルモットの動物学(栄養・生理学)	
10回	猫の生理学		25回	モルモットの飼育(設備、餌など)	
11回	猫の形態学		26回	ハムスターの飼育	
12回	猫の行動学		27回	小鳥の飼育(ブンチョウ、セキセイインコなど)	
13回	栄養学と飼育設備		28回	中型鳥類の飼育(コンゴウインコなど)	
14回	猫の健康と福祉		29回	爬虫類の飼育	
15回	期末試験・まとめ・振り返り		30回	期末試験・まとめ・振り返り	
備考					

授業科目	動物看護学概論				
	対象学科	開講時期	必修・選択	授業形態	単位数
	動物看護学科	1年次通年	必修	講義	1
担当教員	外山 朋子				
実務経験歴	認定動物看護師資格習得し、動物病院にて5年間勤務				
授業目的	動物看護師の歴史について学ぶ				
達成目標	動物看護師について他人に自信を持って説明できるようになる				
授業時間外に必要な学修	講義中疑問に思ったことについて各自調べ、考察する				
テキスト					
参考書					
成績評価(割合)	期末試験 (9割) ・授業態度 (1割)				
授業内容とスケジュール					
1回	講義説明		16回	前期復習	
2回	看護とは		17回	動物看護過程	
3回	動物看護とは		18回	動物看護と法律	
4回	動物看護と倫理		19回	動物看護資格	
5回	動物の健康、福祉、QOL		20回	動物看護と国家試験	
6回	インフォームドコンセント		21回	愛玩動物看護法	
7回	動物病院について		22回	欧米の動物看護師	
8回	動物看護技術		23回	動物看護師と獣医師	
9回	動物看護記録		24回	動物看護の職域	
10回	獣医療の歴史		25回	動物看護と動物病院	
11回	動物看護と獣医学		26回	動物看護と社会	
12回	動物看護師の仕事		27回	動物看護と動物	
13回	動物看護師の1日		28回	動物看護の実際	
14回	講義まとめ		29回	講義まとめ	
15回	期末試験・まとめ・振り返り		30回	期末試験・まとめ・振り返り	
備考					

授業科目	動物内科看護学				
	対象学科	開講時期	必修・選択	授業形態	単位数
	動物看護学科	1年生前期	必修	講義・演習	1単位
担当教員	益永 加奈				
実務経験歴	認定動物看護師資格を有し、動物病院にて5年の勤務経験を有する				
授業目的	動物の臨床看護に必要な知識を修得する				
達成目標	犬や猫の日常的な健康管理や内科診療の補助に必要な基礎知識を学び、身体検査や採血、投薬、輸血、輸液などについて理解する。				
授業時間外に必要な学修					
テキスト	動物看護コアテキスト第5動物看護の基礎／ファームプレス				
参考書	配布資料				
成績評価(割合)	期末試験100%				
授業内容とスケジュール					
1回	健康の保持・増進①				
2回	健康の保持・増進②				
3回	診療補助に必要な技術①				
4回	診療補助に必要な技術②				
5回	検査・処置に必要な技術①				
6回	検査・処置に必要な技術②				
7回	投薬に関わる技術①				
8回	投薬に関わる技術②				
9回	輸液に関わる技術①				
10回	輸液に関わる技術②				
11回	輸液に関わる技術③				
12回	輸血に関わる技術①				
13回	輸血に関わる技術②				
14回	前期授業内容に基づくまとめ				
15回	期末試験・まとめ・振り返り				
備考					

授業科目	動物外科看護学				
	対象学科	開講時期	必修・選択	授業形態	単位数
	動物看護学科	2年生通年	必修	講義	2
担当教員	谷 真由美				
実務経験歴	認定動物看護師資格を有する				
授業目的	外科診療の補助、看護について学び、安全な周術期管理を修得する。				
達成目標	基礎的な周術期管理を迅速かつ安全、正確に行えるようになる。				
授業時間外に必要な学修	日常的に動物を観察し、動物の正常な状態を把握しておく。				
テキスト	動物看護実習テキスト第2版/インターズー				
参考書	asbook周術期の動物看護パーフェクトナビ/インターズー				
成績評価(割合)	期末試験(90%)、学習態度(10%)で総合的に評価する。				
授業内容とスケジュール					
1回	講義について				
2回	救急救命・エマージェンシーの原因と病態				
3回	救急救命 ショックについて				
4回	救急救命・心肺蘇生				
5回	麻酔前評価				
6回	麻酔前検査				
7回	麻酔薬の種類と主義				
8回	麻酔管理項目				
9回	麻酔投与 (前投与、導入、覚醒) 1				
10回	麻酔投与 (前投与、導入、覚醒) 2				
11回	麻酔中管理 各種モニター 1				
12回	麻酔中管理 各種モニター 2				
13回	麻酔中記録				
14回	講義まとめ				
15回	期末試験・まとめ・振り返り				
備考					

授業科目	動物外科看護学				
	対象学科	開講時期	必修・選択	授業形態	単位数
	動物看護学科	2年次（通年）	必修	講義・演習	2単位
担当教員	金江 早智				
実務経験歴	動物看護業務に8年従事				
授業目的	外科診療の補助、看護について学び、安全な周術期管理を修得する。				
達成目標	基礎的な周術期管理を迅速かつ安全、正確に行えるようになる。				
授業時間外に必要な学修	日常的に動物を観察し、動物の正常な状態を把握しておく。				
テキスト	動物看護実習テキスト第2版/インターズー				
参考書	asbook周術期の動物看護パーフェクトナビ/インターズー				
成績評価(割合)	期末試験（90%）、学習態度（10%）で総合的に評価する。				
授業内容とスケジュール					
1回	周術期の流れ				
2回	術前管理				
3回	消毒・滅菌法、術衣・術布の準備				
4回	手術器具・機材の準備				
5回	術者に必要な準備				
6回	看護動物に必要な準備				
7回	術野の消毒				
8回	術前管理・準備のまとめ				
9回	術中・術後管理について概要確認				
10回	理学療法目的と意義、対象疾患				
11回	理学療法の内容				
12回	理学療法を行う際の注意点				
13回	在宅管理の方法				
14回	後期のまとめ				
15回	期末試験・まとめ・振り返り				
備考					

授業科目	動物臨床看護学総論				
	対象学科	開講時期	必修・選択	授業形態	単位数
	動物看護学科	1年次（前期）	必修	講義	2単位
担当教員	金江 早智				
実務経験歴	動物看護業務に8年間従事				
授業目的	動物看護過程の一連のプロセスを学び、事例ごとの個別性に重きを置いた動物看護の基本的な考え方を修得する。				
達成目標	事例に合った動物看護過程の展開、正確な動物看護記録が作成できるようになる。				
授業時間外に必要な学修	動物の情報の伝達など、チームを意識した動物飼育管理を行う。				
テキスト	動物看護コアテキスト⑤動物看護の基礎/ファームプレス				
参考書	動物看護過程/インターズー				
成績評価(割合)	期末試験（90%）、学習態度（10%）				
授業内容とスケジュール					
1回	動物看護師の業務について知る				
2回	チーム医療				
3回	動物看護過程①				
4回	動物看護過程②（事例に沿って計画作成）				
5回	動物看護記録①				
6回	動物看護記録②（事例に沿って記録作成）				
7回	動物看護におけるリスクマネジメント				
8回	幼齢動物看護①（食事・飼育環境・予防）				
9回	幼齢動物看護②（疾患）				
10回	高齢動物看護①（変化・食事・飼育環境）				
11回	高齢動物看護②（疾患）				
12回	高齢動物看護③（介護・褥瘡）				
13回	ターミナルケア、エンジェルケア				
14回	グリーンケア、まとめ				
15回	期末試験・振り返り・総評				
備考					

授業科目	動物臨床看護学各論				
	対象学科	開講時期	必修・選択	授業形態	単位数
	動物看護学科	1年次通年	必修	講義・演習	備考参照
担当教員	田中 里香				
実務経験歴	獣医師免許修得、小動物臨床従事				
授業目的	動物の臨床看護に必要な知識を修得する				
達成目標	様々な疾患の病態生理を理解し、引き起こされる症状や必要な処置、治療に関する基本的な知識を学ぶ。それらの動物に対して動物看護師として見るべきポイントを学び、看護の方法を修得する。				
授業時間外に必要な学修					
テキスト	ビジュアユで学ぶ動物看護学/緑書房、動物看護コアテキスト6 動物看護の実践/株式会社ファームプレス				
参考書	配布資料				
成績評価(割合)	筆記試験 100%				
授業内容とスケジュール					
1回	筋骨格系 犬の骨格	16回	感覚器疾患耳①解剖と生理		
2回	筋骨格系 ウサギ、鳥類の骨格	17回	感覚器疾患耳②主症状と検査		
3回	全身徴候	18回	感覚器疾患耳③各疾患と看護		
4回	循環器疾患①解剖と生理	19回	感覚器疾患眼①解剖と生理		
5回	循環器疾患②解剖と生理	20回	感覚器疾患眼②主症状と検査		
6回	循環器疾患③主症状と検査	21回	感覚器眼疾患③各疾患と看護		
7回	循環器疾患④各疾患と看護 1	22回	呼吸器疾患①解剖と生理		
8回	循環器疾患⑤各疾患と看護 2	23回	呼吸器疾患②主症状と検査および各疾患と看護		
9回	泌尿器疾患①解剖と生理	24回	上部消化器疾患①解剖と生理		
10回	泌尿器疾患②解剖と生理	25回	上部消化器疾患②各症状と検査		
11回	泌尿器疾患③主症状と検査	26回	上部消化器疾患③各疾患と看護		
12回	泌尿器疾患④各疾患と看護 1	27回	下部消化器疾患①解剖と生理		
13回	泌尿器疾患⑤各疾患と看護 2	28回	下部消化器疾患②各症状と検査		
14回	前期授業内容に基づくまとめ	29回	下部消化器疾患③各疾患と看護		
15回	前期筆記試験・振り返り・総評	30回	後期筆記試験・振り返り・総評		
備考	1年次通年、2年次通年 科目合計1単位				

授業科目	動物臨床看護学各論				
	対象学科	開講時期	必修・選択	授業形態	単位数
	動物看護学科	2年次通年	必修	講義・演習	備考参照
担当教員	田中 里香				
実務経験歴	獣医師免許修得、小動物臨床従事				
授業目的	様々な疾患の病態生理を理解し、それによって引き起こされる症状や必要な処置、治療に関する基本的な知識を学ぶ。各々の機能障害をもつ動物にたいしてどのような看護を提供すべきか、評価と介入の方法を修得する。				
達成目標	動物の臨床看護に必要な知識を修得する				
授業時間外に必要な学修					
テキスト	ビジュアユで学ぶ動物看護学/緑書房、動物看護コアテキスト6 動物看護の実践/株式会社ファームプレス				
参考書	配布資料				
成績評価(割合)	筆記試験 100%				
授業内容とスケジュール					
1回	生殖器疾患①解剖と生理	16回	前期復習		
2回	生殖器疾患②主症状と検査	17回	血液疾患①		
3回	生殖器疾患③各疾患と看護 1	18回	血液疾患②		
4回	生殖器疾患④各疾患と看護 2	19回	運動器系疾患①解剖と生理		
5回	神経系疾患①解剖と生理	20回	運動器系疾患②主症状と検査		
6回	神経系疾患②症状と検査	21回	運動器系疾患③各疾患と看護 1		
7回	神経系疾患③各疾患と看護	22回	運動器系疾患④各疾患と看護 2		
8回	内分泌系疾患①解剖と生理	23回	感染症の基礎と予防		
9回	内分泌系疾患②症状と検査	24回	感染症①ウイルス		
10回	内分泌系疾患③各疾患と看護	25回	感染症②細菌、真菌		
11回	外皮系疾患①解剖と生理	26回	感染症③寄生虫		
12回	外皮系疾患②症状と検査	27回	担がん動物の看護①		
13回	外皮系疾患③各疾患と看護	28回	担がん動物の看護②		
14回	前期授業内容に基づくまとめ	29回	後期授業内容に基づくまとめ		
15回	前期筆記試験・総評・まとめ	30回	後期筆記試験・総評・まとめ		
備考	1年次通年、2年次通年 科目合計2単位				

授業科目	動物臨床検査学				
	対象学科	開講時期	必修・選択	授業形態	単位数
	動物看護学科	1年次通年	必修	講義・演習	1単位
担当教員	宗内 隆義・田中 里香				
実務経験歴	宗内 隆義；放射線業務（画像診断、放射線治療、核医学検査、放射線管理）に38年間従事 田中 里香；獣医師免許修得、小動物臨床に従事				
授業目的	様々な臨床検査の原理や方法、意義について学び、検体や測定機器の正しい扱い方、所見の記録方法を修得する				
達成目標	動物病院業務に必要な各種検査の知識を修得する				
授業時間外に必要な学修					
テキスト	動物看護学／日本動物看護学会 動物看護実習テキスト／インターズー 動物看護コアテキスト第6 動物看護の実践／ファームプレス				
参考書					
成績評価(割合)	筆記試験100%				
授業内容とスケジュール					
1回	臨床検査における動物看護師の役割	16回	各種検査法の理解、検体の取り扱い		
2回	放射線（X線等）について、X線装置の基本原則①	17回	血液検査①		
3回	放射線（X線等）について、X線装置の基本原則②	18回	血液検査②		
4回	放射線の単位、性質、X線検査に必要な機器・器材①	19回	尿検査		
5回	放射線の単位、性質、X線検査に必要な機器・器材②	20回	糞便検査		
6回	X線撮影法（ポジショニング、用語、撮影の実際、造影検査）①	21回	細胞診		
7回	X線撮影法（ポジショニング、用語、撮影の実際、造影検査）②	22回	病理組織検査		
8回	画像処理（アナログ・デジタル処理）①	23回	遺伝子検査		
9回	画像処理（アナログ・デジタル処理）②	24回	心電図検査		
10回	CT装置、MRI装置の基本原則、検査の実際①	25回	神経学的検査		
11回	CT装置、MRI装置の基本原則、検査の実際②	26回	皮膚検査		
12回	放射線防護の知識（防護の3原則、測定器）①	27回	眼科検査		
13回	放射線防護の知識（防護の3原則、測定器）②	28回	まとめ		
14回	まとめ	29回	総合まとめ		
15回	期末試験・総評	30回	期末試験・振り返り・総評		
備考					

授業科目	動物医療コミュニケーション				
	対象学科	開講時期	必修・選択	授業形態	単位数
	動物看護学科	2年次（前期）	必修	講義・演習	2単位
担当教員	金江 早智				
実務経験歴	動物看護業務に8年間従事				
授業目的	日常健康管理に関わる飼い主教育、院内におけるほかのスタッフとのコミュニケーションの基礎を身につける。				
達成目標	動物の予防・管理について適切に指導でき、院内（チーム内）でのマナー、コミュニケーションが円滑に行える。				
授業時間外に必要な学修	自己のコミュニケーションやマナー、言葉づかい等を検討、評価してみる。				
テキスト	動物看護コアテキスト⑤動物看護の基礎/ファームプレス				
参考書	動物病院スタッフのための院内コミュニケーション基礎知識編・実践編/インターズー				
成績評価(割合)	期末試験（90%）、学習態度（10%）				
授業内容とスケジュール					
1回	クライアントエデュケーションの目的と概要				
2回	犬・猫の予防①（狂犬病、混合ワクチン）				
3回	犬・猫の予防②（フィラリア、ノミ・マダニ、不妊去勢）				
4回	クライアントエデュケーション演習				
5回	院内コミュニケーション①（コミュニケーションとは、身だしなみ、言葉づかい）				
6回	院内コミュニケーション②（受付でのコミュニケーション）				
7回	院内コミュニケーション③（電話対応）				
8回	院内コミュニケーション④（診察室でのコミュニケーション）				
9回	院内コミュニケーション⑤（スタッフコミュニケーション①）				
10回	院内コミュニケーション⑥（スタッフコミュニケーション②）				
11回	院内マネジメント①（目的と役割）				
12回	院内マネジメント②（院内スタッフのメンタルヘルスとセルフケア）				
13回	グリーンケア				
14回	前期まとめ				
15回	期末試験・振り返り・総評				
備考					

授業科目	産業動物学				
	対象学科	開講時期	必修・選択	授業形態	単位数
	動物看護学科	2年次（後期）	必修	講義	3
担当教員	福田伸治				
実務経験歴	と畜検査・食品衛生行政、感染症調査研究業務に34年従事				
授業目的	産業動物の歴史や品種、主要家畜の飼養管理法、畜産業の実際および家畜の監視伝染病について学修する。				
達成目標	産業動物と人の社会生活との関わりを理解する。				
授業時間外に必要な学修	テキストや配布プリントを利用して、單元ごとの内容を予習復習する。				
テキスト	動物看護コアテキスト動物の行動と健康管理4/動物看護コアテキスト編集委員会/ファームプレス、配布プリント				
参考書					
成績評価(割合)	期末試験（100%）で評価する。				
授業内容とスケジュール					
1回	産業動物とは	16回	1回から15回までのまとめ		
2回	産業動物の種類と特徴①	17回	牛、豚の病気		
3回	産業動物の種類と特徴②	18回	鶏、馬、綿羊・山羊の病気		
4回	と畜検査	19回	家畜の監視伝染病		
5回	産業動物の体と特徴①	20回	家畜の主な伝染病の状況		
6回	産業動物の体と特徴②	21回	17回から21回までのまとめ		
7回	畜産業界を取り巻く状況	22回	期末試験・振り返り・総評		
8回	産業動物の飼養及び保管に関する基準	23回			
9回	アニマルウェルフェア	24回			
10回	肉用牛の飼育	25回			
11回	乳用牛の飼育	26回			
12回	豚の飼育	27回			
13回	鶏の飼育	28回			
14回	馬の飼育	29回			
15回	綿羊・山羊の飼育	30回			
備考					

授業科目	実験動物学				
	対象学科	開講時期	必修・選択	授業形態	単位数
	動物看護学科	2年次・後期後半 木曜 I 時限 (7 回)	必修	講義	1
担当教員	矢田範夫 (岡山大学)				
実務経験歴	大学動物実験施設に28年勤務し、動物実験の機関内管理の業務に従事している。				
授業目的	認定動物看護師教育コアカリキュラムの一環として、科学研究に用いられる実験動物の特性とヒトとの関わり、動物実験の社会的役割について学ぶ。				
達成目標	実験動物の歴史や動物種・系統、飼育管理法について理解する。				
授業時間外に必要な学修	新薬開発や革新的治療法開発等の報道を題材にして、そこにおける実験動物の存在に想いを馳せ、かけがえのない命をいただいている私たちの存在を改めて捉え返してみる。				
テキスト	「動物看護コアテキスト4 動物の行動と健康管理」 (ファームプレス 刊)				
参考書					
成績評価(割合)	出席・受講態度50%、定期試験50%				
授業内容とスケジュール					
1回	動物実験と3R				
2回	主な実験動物とその利用				
3回	遺伝学的統御と微生物学的統御				
4回	主な実験動物の生理と構造				
5回	実験動物の飼養管理				
6回	動物の保定法				
7回	個体管理と安全管理				
8回					
9回					
10回					
11回					
12回					
13回					
14回					
15回					
備考					

授業科目	野生動物学				
	対象学科	開講時期	必修・選択	授業形態	単位数
	動物看護学科	1年次(後期)	必修	講義	1単位
担当教員	大津 晴男				
実務経験歴	トラ、ヒョウ、クロサイ、アフリカ産小型哺乳動物、両生類、爬虫類などの飼育、血統管理、収集、輸送など。42年従事				
授業目的	生態系を理解して野生動物の生物学を学ぶ。また、人間と野生動物の関係を考える。				
達成目標	生物の共生関係を理解して、生物多様性の保全の大切さ、人との関係について学ぶ。				
授業時間外に必要な学修	環境破壊など、野生動物と人の関係について、いろいろなメディアを通じて情報を集めて、解決法などを考える。				
テキスト	動物看護コアテキスト第4巻動物の行動と健康管理第2版/編集：動物看護コアテキスト編集委員会/株式会社ファームプレス				
参考書	生物多様性/本川達雄/中央公論新社				
成績評価(割合)	期末試験(80%)、学習態度(20%)で総合的に評価する。				
授業内容とスケジュール					
1回	生態系				
2回	バイオーム				
3回	サンゴ礁① サンゴの分類学				
4回	サンゴ礁② サンゴと褐虫藻の共生				
5回	サンゴ礁③ 生態系				
6回	サンゴ礁④ 白化問題と環境破壊				
7回	日本で絶滅した動物				
8回	コウノトリ① 日本での絶滅とその原因				
9回	コウノトリ② 海外との協力による飼育下繁殖				
10回	コウノトリ③ 野生復帰の過程				
11回	ツシマヤマネコの野生での現状				
12回	ツシマヤマネコの種の保存の取組				
13回	ツシマヤマネコの野生復帰計画				
14回	種の保存法に基づく保全活動				
15回	期末試験・まとめ・総評				
備考					

授業科目	動物臨床栄養学				
	対象学科	開講時期	必修・選択	授業形態	単位数
	動物看護学科	1年次（前期）	必修	講義	2単位
担当教員	金江 早智				
実務経験歴	動物看護業務に8年間従事				
授業目的	基礎栄養学を学ぶとともに、動物病院で活用・実践できる臨床栄養学を修得する。				
達成目標	対象動物に合うペットフードの提案ができるようになる。				
授業時間外に必要な学修	市場にあるペットフードを知り、また飼育動物の嗜好性などを観察、把握しておく。				
テキスト	動物看護コアテキスト⑥動物看護の実践/ファームプレス				
参考書	動物栄養学/インターズー				
成績評価(割合)	期末試験（90%）、学習態度（10%）				
授業内容とスケジュール					
1回	オリエンテーション				
2回	六大栄養素①				
3回	六大栄養素②				
4回	犬・猫の必要栄養素の違い				
5回	ライフステージ①				
6回	ライフステージ②				
7回	BCS、カロリー計算				
8回	フードのタイプと適応				
9回	ペットフードの表記を読み取る				
10回	総合栄養食と特別療法食の違い				
11回	特別療法食①（下部尿路疾患、皮膚疾患）				
12回	特別療法食②（肥満、下痢、便秘）				
13回	特別療法食③（心臓病、慢性腎不全、肝臓病、糖尿病、関節疾患）				
14回	前期まとめ				
15回	期末試験・振り返り・総評				
備考					

授業科目	動物臨床栄養学				
	対象学科	開講時期	必修・選択	授業形態	単位数
	動物看護学科	2年次（前期）	必修	講義	2単位
担当教員	金江 早智				
実務経験歴	動物看護業務に8年間従事				
授業目的	基礎栄養学を学ぶとともに、動物病院で活用・実践できる臨床栄養学を修得する。				
達成目標	対象動物に合うペットフードの提案ができるようになる。				
授業時間外に必要な学修	市場にあるペットフードを知り、また飼育動物の嗜好性などを観察、把握しておく。				
テキスト	動物看護コアテキスト⑥動物看護の実践/ファームプレス				
参考書	動物栄養学/インターズー				
成績評価(割合)	期末試験（90%）、学習態度（10%）				
授業内容とスケジュール					
1回	六大栄養素				
2回	犬・猫の必要な栄養素の違い、ライフステージ				
3回	BCS評価、カロリー計算				
4回	フードのタイプ、ペットフードの表記				
5回	特別療法食①（下部尿路疾患）				
6回	特別療法食②（皮膚疾患）				
7回	特別療法食③（肥満）				
8回	特別療法食④（下痢、便秘）				
9回	特別療法食⑤（心臓病、慢性腎不全）				
10回	特別療法食⑥（肝臓病、糖尿病）				
11回	特別療法食⑦（関節疾患）				
12回	特別療法食の使い分け				
13回	手作りフード				
14回	前期まとめ				
15回	期末試験・振り返り・総評				
備考					

授業科目	動物形態機能学実習				
	対象学科	開講時期	必修・選択	授業形態	単位数
	動物看護学科	1年次通年	必修	座学・演習	1
担当教員	谷 真由美 ・ 外山 朋子				
実務経験歴	【谷】 認定動物看護師資格を有する 【外山】 認定動物看護師資格習得し、動物病院にて5年間勤務				
授業目的	動物の体の作りを実際の標本を元に学ぶ				
達成目標	動物を構成しているものの種類や数、形状を説明できる。顕微鏡を取り扱えるようになる				
授業時間外に必要な学修					
テキスト					
参考書					
成績評価(割合)	期末試験 (8割) ・ 授業態度 (2割)				
授業内容とスケジュール					
1回	実習についての説明	16回	骨学の復習		
2回	骨格標本を用いた実習	17回	筋学の復習		
3回	筋肉について	18回	内部臓器の復習		
4回	内部臓器について 1	19回	顕微鏡実習 1		
5回	内部臓器について 2	20回	顕微鏡実習 2		
6回	顕微鏡の使い方	21回	実習まとめ		
7回	血液塗抹標本	22回	期末試験・振り返り・総評		
8回	組織標本 (総論)	23回			
9回	組織標本 (消化器)	24回			
10回	組織標本 (循環器)	25回			
11回	組織標本 (神経系)	26回			
12回	組織標本 (感覚器)	27回			
13回	顕微鏡標本まとめ	28回			
14回	実習まとめ	29回			
15回	期末試験・振り返り	30回			
備考					

授業科目	動物内科看護学実習				
	対象学科	開講時期	必修・選択	授業形態	単位数
	動物看護学科	1年次（前期）	必修	講義・演習	2単位
担当教員	金江 早智				
実務経験歴	動物看護業務に8年間従事				
授業目的	犬猫の日常的な健康管理や内科診療の補助に必要な手技など、動物内科看護学で学んだ知識の実践力を修得する。				
達成目標	動物のバイタルチェックや保定、輸液の設置を一人で行えるようになる。				
授業時間外に必要な学修	動物の行動や筋骨格をよく観察し、個体に合った保定を考察する。				
テキスト	動物看護実習テキスト/インターズー				
参考書	チームで取り組む獣医師動物看護師のための輸液超入門/インターズー				
成績評価(割合)	期末試験（90%）、学習態度（10%）				
授業内容とスケジュール					
1回	動物の基本的取り扱い（飼育環境、飼育管理、安全なハンドリング）				
2回	動物の基本的取り扱い（安全な運動・散歩）				
3回	動物の基本的取り扱い（グルーミング）				
4回	身体検査（全身状態）				
5回	身体検査（バイタルサイン）				
6回	診療補助（診察室の衛生管理）				
7回	診療補助（保定）				
8回	診療補助（保定）				
9回	診療補助（診療機器の取り扱い）				
10回	診療補助（採血・採尿）				
11回	輸液・輸血に関わる技術				
12回	輸液・輸血に関わる技術				
13回	輸液・輸血に関わる技術				
14回	講義まとめ				
15回	期末試験・振り返り・総評				
備考					

授業科目	動物内科看護学実習				
	対象学科	開講時期	必修・選択	授業形態	単位数
	動物看護学科	2年次（通年）	必修	講義・演習	2
担当教員	田中 里香 ・ 金江 早智				
実務経験歴	【田中】 獣医師免許修得、小動物臨床従事 【金江】 動物看護業務に8年間従事				
授業目的	犬猫の日常的な健康管理や内科診療の補助に必要な手技など、動物内科看護学で学んだ知識の実践力を修得する。				
達成目標	動物のバイタルチェックや保定、輸液の設置を一人で行えるようになる。				
授業時間外に必要な学修	動物の行動や筋骨格をよく観察し、個体に合った保定を考察する。				
テキスト	動物看護実習テキスト/インターズー				
参考書	チームで取り組む獣医師動物看護師のための輸液超入門/インターズー				
成績評価(割合)	期末試験（90%）、学習態度（10%）				
授業内容とスケジュール					
1回	授業について	16回	動物に応じた安全なハンドリング		
2回	全身状態の評価	17回	基本的なグルーミング、飼育環境の整備		
3回	バイタルサインの評価	18回	全身状態・バイタルサインの評価 (内容確認)		
4回	POMRについて	19回	全身状態・バイタルサインの評価 (演習)		
5回	POMRに基づくSOAP	20回	診察室の管理		
6回	POMRとSOAP作成実習	21回	基本保定（演習）		
7回	採血・採尿実習	22回	薬剤の取り扱い		
8回	輸液・輸血について	23回	薬剤の投与方法		
9回	輸液・輸血実習	24回	注射法、注射器の扱い		
10回	ロールプレイング実習1	25回	留置針、輸液の準備		
11回	ロールプレイング実習2	26回	留置針、輸液の設置方法		
12回	ロールプレイング実習3	27回	輸液ポンプ・シリンジポンプの設置 (演習)		
13回	ロールプレイング実習4	28回	輸液中の動物の看護		
14回	講義まとめ	29回	後期まとめ		
15回	期末試験・まとめ	30回	期末試験・振り返り・総評		
備考					

授業科目	動物臨床検査学実習				
	対象学科	開講時期	必修・選択	授業形態	単位数
	動物看護学科 3年コース	1年次（後期）	必修	講義・演習	2単位
担当教員	金江 早智				
実務経験歴	動物看護業務に8年間従事				
授業目的	検体検査および生体検査に必要な手技や機器の扱い方、動物看護師の役割など、動物臨床検査学で学んだ知識の実践力を修得する。				
達成目標	検査に必要な検体の採取や検査の補助が、的確・迅速に行えるようになる。				
授業時間外に必要な学修	動物の行動、正確を観察し、個体に合った検体の採取法や検査の進め方を考察してみる。				
テキスト	動物看護実習テキスト第2版/インターズー				
参考書	犬と猫の血液学/インターズー				
成績評価(割合)	期末試験（90%）、学習態度（10%）				
授業内容とスケジュール					
1回	動物病院で行う検査と動物看護師の役割				
2回	検体の取り扱い				
3回	検体の採取法				
4回	検体検査演習①				
5回	検体検査演習②				
6回	フィラリア症の検査				
7回	簡易検査キットで検出できる感染症				
8回	内分泌検査				
9回	免疫学的検査				
10回	細胞診・病理学的検査の検体処理法と標本作成				
11回	生体検査の種類と方法（基礎）				
12回	各生体検査のポジショニングと保定①				
13回	各生体検査のポジショニングと保定②				
14回	後期まとめ				
15回	期末試験・振り返り・総評				
備考					

授業科目	動物外科看護学実習				
	対象学科	開講時期	必修・選択	授業形態	単位数
	動物看護学科 3年コース	2年次通年	必修	講義・演習	備考参照
担当教員	宗内 隆義・近藤 洋司・津村 大修・田中 里香				
実務経験歴	宗内 隆義；放射線業務（画像診断、放射線治療、核医学検査、放射線管理）に38年間従事 近藤 洋司；獣医師免許修得、近藤動物病院院長 津村 大修；獣医師免許修得、津村動物病院院長 田中 里香；獣医師免許修得後、小動物臨床に従事				
授業目的	修得した知識の実践力を身に付ける				
達成目標	手術準備や術中、術後管理、麻酔準備や麻酔監視、手術の補助、救急救命など動物外科学で学んだ知識の実践力を修得する				
授業時間外に必要な学修					
テキスト	動物看護実習テキスト／インターズー 動物看護コアテキスト第6 動物看護の基礎／ファームプレス				
参考書	配布資料				
成績評価(割合)	筆記試験80%、実習態度20%				
授業内容とスケジュール					
1回	救命救急 エマージェンシーとは	16回	術中モニタリング①		
2回	救急救命 心停止の評価	17回	麻酔管理①		
3回	救急救命 心肺蘇生と気道確保のBLS	18回	麻酔管理②		
4回	救急救命 薬剤選択や除細動を含めたALS	19回	術中モニタリング①		
5回	実際のケースを想定した実習	20回	術中モニタリング②		
6回	術前検査①	21回	術後管理①		
7回	術前検査②	22回	術後管理②		
8回	術前検査③	23回	外科実習①		
9回	術前検査④	24回	外科実習①		
10回	一般的な手術器具①	25回	外科実習①		
11回	一般的な手術器具②	26回	外科実習②		
12回	歯科器具、歯科処置①	27回	外科実習②		
13回	歯科器具、歯科処置②	28回	外科実習②		
14回	器具の消毒、滅菌	29回	外科実習③		
15回	手術補助	30回	外科実習③		
備考	2年前期・2年後期 科目合計2単位				

授業科目	総合研究 I				
	対象学科	開講時期	必修・選択	授業形態	単位数
	動物看護学科	2年次（後期）	必修	講義	1
担当教員	田中 里香				
実務経験歴	獣医師免許修得、小動物臨床従事				
授業目的	これまで学習してきた動物看護だけでなく、愛玩動物、実験動物、展示動物など様々な飼育形態に対応した飼育技術をみにつける。また、これまでの学習を生かし研究発表をおこなう				
達成目標	目的に応じた認識、技術を深める。また、これら知識、技術をいかし、研究発表をおこなう				
授業時間外に必要な学修					
テキスト					
参考書					
成績評価(割合)					
授業内容とスケジュール					
1回	オリエンテーション				
2回	研究テーマ選定				
3回	研究テーマ決定・研究方法の検				
4回	個別・グループ研究				
5回	個別・グループ研究				
6回	個別・グループ研究				
7回	個別・グループ研究				
8回	個別・グループ研究				
9回	個別・グループ研究				
10回	個別・グループ研究				
11回	個別・グループ研究				
12回	個別・グループ研究				
13回	個別・グループ研究				
14回	研究発表				
15回	研究発表				
備考					

動物看護学科  
3年課程

授業科目	産業動物学各論				
	対象学科	開講時期	必修・選択	授業形態	単位数
	動物看護学科 3年課程	3年次（前期）	必修	講義	2
担当教員	福田伸治				
実務経験歴	と畜検査・食品衛生行政、感染症調査研究業務に34年従事				
授業目的	産業動物の歴史や品種、主要家畜の飼養管理法、畜産業の実際および家畜の監視伝染病について学修する。				
達成目標	産業動物と人の社会生活との関わりを理解する。				
授業時間外に必要な学修	配布プリントを利用して、單元ごとの内容を予習復習する。				
テキスト	配布プリント				
参考書					
成績評価(割合)	期末試験（100%）で評価する。				
授業内容とスケジュール					
1回	産業動物の種類と特徴				
2回	産業動物の体と特徴				
3回	産業動物の飼養及び管理に関する基準、アニマルウェルフェア				
4回	畜産業界を取り巻く状況				
5回	肉用牛、乳用牛の飼育				
6回	豚、鶏の飼育				
7回	馬、綿羊・山羊の飼育				
8回	牛、豚の病気				
9回	鶏、馬、綿羊・山羊の病気				
10回	家畜伝染病				
11回	家畜の届出伝染病				
12回	家畜に届出伝染病				
13回	家畜のワクチン				
14回	全体のまとめ				
15回	期末試験・振り返り・総評				
備考					

授業科目	実験動物学各論				
	対象学科	開講時期	必修・選択	授業形態	単位数
	動物看護学科 3年課程	3年次（通年）	必修	講義・実習	4
担当教員	矢田範夫（岡山大学） 武智真由美（第4・5・6回/島根大学）・橋本春菜（実習/岡山大学）				
実務経験歴	矢田は大学動物実験施設に28年勤務し、動物実験の機関内管理の業務に従事。また武智は実験動物技術指導員として技術指導に精通。橋本は実験動物1級技術者として5年の実務経験。				
授業目的	生命科学研究において動物実験は避けて通れない方法論である。だが生命を扱うという自覚を忘れてはならない。本講義・実習を通じて実験動物の科学的かつ倫理的取り扱いの重要性を学び、適正な動物実験の一翼を担う技術者となるための基礎知識を身につける。				
達成目標	実験動物の遺伝的・微生物学的統御、生理・解剖等を理解し、実験動物2級技術者試験に合格できる知識・技術を修得する。				
授業時間外に必要な学修	岡山大学でのインターンシップ研修への参加を推奨する。				
テキスト	「実験動物の技術と応用 入門編」（日本実験動物協会 編・株式会社アドスリー 刊）				
参考書	「実験動物の飼養及び保管並びに苦痛の軽減に関する基準の解説」（環境省動物愛護管理室 編・株式会社アドスリー 刊） 「アニマルマネジメント」Ⅰ～Ⅲ（笠井一弘 著・株式会社アドスリー 刊）				
成績評価(割合)	出席・受講態度50%、定期試験50%（前期は択一式、後期は小論文形式）				
授業内容とスケジュール					
1回～3回	動物実験と社会(テキストI)	46回～48回	講義・実習①ケージ交換、給水管理		
4回～6回	施設と環境(テキストVII)・ 飼育と衛生(テキストVI)	49回～52回	講義・実習②繁殖計画		
7回～9回	栄養と飼料(テキストV)	53回～56回	講義・実習③雌雄判別、個体識別		
10回～13回	解剖と生理(テキストII)	57回～59回	講義・実習④保定・腹腔内投与		
14回～17回	解剖と生理(テキストII)	60回～63回	講義・実習⑤経口投与		
18回～20回	病気と感染(テキストVIII)	64回～67回	講義・実習⑥尾静脈採血		
21回～23回	遺伝と育種(テキストIII)	68回～70回	講義・実習⑦実技試験直前対策(1)		
24回～28回	繁殖(テキストIV)	71回～73回	講義・実習⑧実技試験直前対策(2)		
29回～31回	動物実験の基本(テキストIX)	74回～76回	講義・実習⑨性周期の観察		
32回～33回	各論・マウス・ラット	77回～80回	講義・実習⑩安楽死法		
34回～35回	各論・その他のげっ歯類(ハムスター・スナネズミ)	81回～83回	講義 動物実験計画書と動物実験の機関内管理		
36回～37回	マウス・ラットの基本的な取り扱い	84回～86回	講義 麻酔法		
38回～40回	学科試験直前対策	87回～88回	講義 周術期管理		
41回～44回	実験動物の福祉(総論)	89回	講義 実験動物技術者のキャリアパス		
45回	前期試験・まとめ	90回	後期試験・振り返り・総評		
備考					

授業科目	放射線医学				
	対象学科	開講時期	必修・選択	授業形態	単位数
	動物看護学科 3年課程	3年次（前期）	必修	講義	2単位
担当教員	宗内 隆義				
実務経験歴	放射線業務（画像診断、放射線治療、核医学検査、放射線管理）に38年間従事、				
授業目的	獣医診療に必要な画像診断、高度な診療（核医学検査、放射線治療）、獣医療法について学ぶ				
達成目標	画像診断の基礎的な理解、高度な診療、放射線治療について				
授業時間外に必要な学修	課外授業として、総合病院の放射線科を見学				
テキスト					
参考書	看護と放射線（日本アイソトープ協会）				
成績評価(割合)	筆記試験100%				
授業内容とスケジュール					
1回	核医学検査について（放射性物質、医薬品）①				
2回	核医学検査について（放射性物質、医薬品）②				
3回	核医学検査について（放射性物質、医薬品）③				
4回	核医学検査の原理、検査の実際①				
5回	核医学検査の原理、検査の実際②				
6回	核医学検査の原理、検査の実際③				
7回	課外授業として、総合病院の放射線科を見学				
8回	課外授業として、総合病院の放射線科を見学				
9回	課外授業として、総合病院の放射線科を見学				
10回	課外授業として、総合病院の放射線科を見学				
11回	放射線治療（治療の特徴、がん細胞と放射線、核医学治療）・・・1				
12回	放射線治療（治療の特徴、がん細胞と放射線、核医学治療）・・・2、獣医療法				
13回	前期授業内容に基づくまとめ				
14回	振り返り				
15回	期末試験・総評				
備考					

授業科目	動物飼育実習 I				
	対象学科	開講時期	必修・選択	授業形態	単位数
	動物看護学科 3年課程	3年次(前期)	必修	講義	2単位
担当教員	大津 晴男				
実務経験歴	トラ、ヒョウ、クロサイ、アフリカ産小型哺乳動物、両生類、爬虫類などの飼育、血統管理、収集、輸送など。42年従事				
授業目的	動物、とくに野生動物について、その飼育施設、飼育環境などを安全面や動物福祉に注目して学ぶ。また、繁殖や飼料、健康管理について考える。				
達成目標	動物の飼育を、健康管理、また、その動物の習性に合った環境について考えて飼育することを学ぶ。				
授業時間外に必要な学修	いろいろな動物のそれぞれの習性について、いろいろなメディアを通じて学ぶ。				
テキスト	配布資料				
参考書	動物園動物管理学/監訳村田浩一、楠田哲士/文永堂出版株式会社				
成績評価(割合)	期末試験(80%)、学習態度(20%)で総合的に評価する。				
授業内容とスケジュール					
1回	飼育施設 な設備	脱出等の事故防止や安全	16回	チーターの飼育と繁殖①	
2回	飼育施設	衛生的な管理	17回	チーターの飼育と繁殖②	
3回	飼育施設 する設備	動物が本来の行動を表現	18回	フラミンゴの飼育と繁殖①	
4回	飼育施設	動物の治療などの手当て を容易にする構造	19回	フラミンゴの飼育と繁殖②	
5回	トラの飼育と繁殖①		20回	オシドリの飼育と繁殖①	
6回	トラの飼育と繁殖②		21回	オシドリの飼育と繁殖②	
7回	飼育下のクロサイの国際的血統管理 ①		22回	カリフォルニアキングヘビの飼育と 繁殖①	
8回	飼育下のクロサイの国際的血統管理 ②		23回	カリフォルニアキングヘビの飼育と 繁殖②	
9回	クロサイの飼育と繁殖①		24回	マムシの飼育と繁殖①	
10回	クロサイの飼育と繁殖②		25回	マムシの飼育と繁殖②	
11回	ライオンの飼育と繁殖①		26回	ホシガメの飼育と繁殖①	
12回	ライオンの飼育と繁殖②		27回	ホシガメの飼育と繁殖②	
13回	キノボリジャコウネコの飼育と繁殖 ①		28回	オオサンショウウオの飼育と繁殖①	
14回	キノボリジャコウネコの飼育と繁殖 ②		29回	オオサンショウウオの飼育と繁殖②	
15回	ハクビシンの飼育と繁殖		30回	定期試験・振り返り・総評	
備考					

授業科目	動物飼育実習Ⅱ				
	対象学科	開講時期	必修・選択	授業形態	単位数
	動物看護学科 3年課程	3年次(後期)	必修	講義	2単位
担当教員	大津 晴男				
実務経験歴	トラ、ヒョウ、クロサイ、アフリカ産小型哺乳動物、両生類、爬虫類などの飼育、血統管理、収集、輸送など。42年従事				
授業目的	動物、とくに野生動物について、その飼育施設、飼育環境などを安全面や動物福祉に注目して学ぶ。また、栄養面や健康管理について考える。				
達成目標	動物の飼育を、健康管理、また、その動物の習性に合った環境について考えて飼育することを学ぶ。				
授業時間外に必要な学修	いろいろな動物のいろいろな習性について、いろいろなメディアを通じて学ぶ。				
テキスト	配布資料				
参考書	動物園動物管理学/監訳村田浩一、楠田哲士/文永堂出版株式会社				
成績評価(割合)	期末試験(80%)、学習態度(20%)で総合的に評価する。				
授業内容とスケジュール					
1回	飼育環境の整備ー環境エンリッチメント①	16回	エリマキキツネザルの飼育と繁殖①		
2回	飼育環境の整備ー環境エンリッチメント②	17回	エリマキキツネザルの飼育と繁殖②		
3回	飼育環境の整備ー環境エンリッチメント③	18回	ブラッザグェノンの飼育と繁殖①		
4回	動物展示法の歴史①	19回	ブラッザグェノンの飼育と繁殖②		
5回	動物展示法の歴史②	20回	マレーバクの飼育と繁殖①		
6回	展示法ーランドスケープイマージョンとは	21回	マレーバクの飼育と繁殖②		
7回	展示法ーランドスケープイマージョンの実例	22回	ワシミミズクの飼育と繁殖①		
8回	動物園研修 トラなど肉食動物の飼育	23回	ワシミミズクの飼育と繁殖②		
9回	動物園研修 クロサイなど草食動物の飼育	24回	コンゴウインコの飼育と繁殖①		
10回	レッサーパンダの飼育と繁殖①	25回	コンゴウインコの飼育と繁殖②		
11回	レッサーパンダの飼育と繁殖②	26回	スナボアの飼育と繁殖①		
12回	ニホンツキノワグマの人工哺育①	27回	スナボアの飼育と繁殖②		
13回	ニホンツキノワグマの人工哺育②	28回	ニシアフリカコガタワニの飼育と繁殖①		
14回	ヒョウの飼育と繁殖①	29回	ニシアフリカコガタワニの飼育と繁殖②		
15回	ヒョウの飼育と繁殖②	30回	定期試験・振り返り・総評		
備考					

授業科目	応用動物看護学実習 I				
	対象学科	開講時期	必修・選択	授業形態	単位数
	動物看護学科 3年課程	3年次前期	必修	座学・演習	3
担当教員	田中 里香 ・ 金江 早智				
実務経験歴	【田中】 獣医師免許修得、小動物臨床従事 【金江】 動物看護業務に8年間従事				
授業目的	動物看護師として、動物病院に勤務する上で必要な知識・技術について実践形式で学ぶ				
達成目標	現場で動ける看護師になる				
授業時間外に必要な学修	事前配布した資料や実習の復習				
テキスト	実習内で必要に応じて配布				
参考書					
成績評価(割合)	定期試験 (6割) ・ 実技試験 (3割) ・ 小テスト (1割)				
授業内容とスケジュール					
1～2回	講義について		31～32回	血液検査 生化学 1	
3～4回	救急対応 基礎 1		33～34回	血液検査 生化学 2	
5～6回	救急対応 基礎 2		35～36回	血液検査 内分泌 1	
7～8回	救急対応 トリアージ 1		37～38回	血液検査 血液ガス 1	
9～10回	救急対応 トリアージ 2		39～40回	血液検査 凝固系 1	
11～12回	救急対応 CPR1		41～42回	学外研修 (動物管理センター)	
13～14回	救急対応 CPR2		43～44回	学外研修 (動物管理センター)	
15～16回	救急対応 BLS1		45～46回	学外研修 (動物管理センター)	
17～18回	救急対応 BSL2		47～48回	学外研修 (動物管理センター)	
19～20回	救急対応 まとめ 1		49～50回	学外研修 (動物管理センター)	
21～22回	救急対応 まとめ 2		51～52回	学外研修 (動物管理センター)	
23～24回	血液検査 基礎 1		53～54回	学外研修 (動物管理センター)	
25～26回	血液検査 基礎 2		55～56回	学外研修 (動物管理センター)	
27～28回	血液検査 CBC1		57～58回	学外研修 (動物管理センター)	
29～30回	血液検査 CBC2		59～60回	期末試験・振り返り・総評	
備考					

授業科目	応用動物看護学実習Ⅱ				
	対象学科	開講時期	必修・選択	授業形態	単位数
	動物看護学科 3年課程	3年次後期	必修	座学・演習	3
担当教員	田中 里香 ・ 金江 早智				
実務経験歴	【田中】 獣医師免許修得、小動物臨床従事 【金江】 動物看護業務に8年間従事				
授業目的	動物看護師として、動物病院に勤務する上で必要な知識・技術について実践形式で学ぶ				
達成目標	現場で動ける看護師になる				
授業時間外に必要な学修	事前配布した資料や実習の復習				
テキスト	実習内で必要に応じて配布				
参考書					
成績評価(割合)	定期試験 (6割) ・実技試験 (3割) ・小テスト (1割)				
授業内容とスケジュール					
1～2回	前期の復習 1		31～32回	画像検査実習 超音波 4	
3～4回	前期の復習 2		33～34回	画像検査実習 レントゲン 1	
5～6回	顕微鏡実習 1		35～36回	画像検査実習 レントゲン 2	
7～8回	顕微鏡実習 2		37～38回	画像検査実習 レントゲン 3	
9～10回	顕微鏡実習 3		39～40回	画像検査実習 レントゲン 4	
11～12回	顕微鏡実習 4		41～42回	画像検査実習 CT 1	
13～14回	顕微鏡実習 5		43～44回	画像検査実習 CT 2	
15～16回	顕微鏡実習 6		45～46回	画像検査実習 MRI 1	
17～18回	顕微鏡実習 7		47～48回	画像検査実習 MRI 2	
19～20回	顕微鏡実習 8		49～50回	周術期管理実習 1	
21～22回	顕微鏡実習 9		51～52回	周術期管理実習 2	
23～24回	顕微鏡実習 10		53～54回	周術期管理実習 3	
25～26回	画像検査実習 超音波 1		55～56回	周術期管理実習 4	
27～28回	画像検査実習 超音波 2		57～58回	講義まとめ	
29～30回	画像検査実習 超音波 3		59～60回	期末試験・振り返り・総評	
備考					

授業科目	動物福祉学				
	対象学科	開講時期	必修・選択	授業形態	単位数
	動物看護学科 3年課程	3年次(前期)	必修	講義	2単位
担当教員	大津 晴男				
実務経験歴	動物園での、分類学に基づく動物の収集・展示。42年従事				
授業目的	多様な野生生物を知り、生物の多様性を理解して、親しむ。				
達成目標	分類学に基づいた動植物の理解をする。				
授業時間外に必要な学修	動物園や植物園で、展示生物の分類学的な理解をする。				
テキスト	配布印刷物、雑草のはなし/田中修/中央公論新社				
参考書	生物分類技能検定3級・4級解説集/自然環境研究センター，生物分類技能検定事務局				
成績評価(割合)	期末試験(80%)、学習態度(20%)で総合的に評価する。				
授業内容とスケジュール					
1回	生命誕生				
2回	進化				
3回	分類学概論 学名について 前口動物と後口動物				
4回	分類学概論 脊索動物の分類				
5回	哺乳類の分類				
6回	鯨偶蹄目				
7回	動物園研修(キリンの骨格標本組み立てて、その構造を学ぶ)				
8回	奇蹄目				
9回	イヌ科、ネコ科の動物				
10回	霊長類の分類				
11回	植物分類学				
12回	植物園研修(APG分類など)				
13回	雑草などの身近な植物				
14回	動物と植物の共生関係				
15回	期末試験・振り返り・総評				
備考					

授業科目	人間関係学				
	対象学科	開講時期	必修・選択	授業形態	単位数
	動物看護学科	3年次（前期）	必修	講義	2単位
担当教員	橋本 昭				
実務経験歴	高齢者施設や幼稚園にて、アニマルセラピー活動を10年以上実施				
授業目的	動物が人間社会で果たしている役割やその背景・歴史を学び、人と動物の関係を理解する。				
達成目標	動物が人に与える影響を理解し、より良い関係を提案できるようになる。				
授業時間外に必要な学修	様々な人と動物の関係を日常的に観察し、それについて考察してみる。				
テキスト	動物看護コアテキスト①人と動物の関係/ファームプレス				
参考書					
成績評価(割合)	期末試験（90%）、学習態度（10%）				
授業内容とスケジュール					
1回	ヒトと動物の関係の歴史、基盤となった学問				
2回	ヒトと動物の関係				
3回	動物がヒトに及ぼす影響				
4回	使役動物と補助犬				
5回	介在動物				
6回	AAA・AAE・AATについて				
7回	実際のAAAについて知る				
8回	子供と動物の関係				
9回	高齢者と動物の関係				
10回	罪を犯した人と動物の関係				
11回	ペットロス				
12回	安楽死				
13回	ヒトと動物の関係の在り方について考える				
14回	まとめ				
15回	試験、振り返り				
備考					

	動物飼育技術学
授業科目	動物飼養管理学ⅠⅡⅢに準ずる

授業科目	環境動物管理学				
	対象学科	開講時期	必修・選択	授業形態	単位数
	動物看護学科 3年課程	3年次（前期）	必修	実習	2単位
担当教員	田中 里香				
実務経験歴	獣医師免許修得、小動物臨床従事				
授業目的	学内で習得した知識・技術を実践の現場で活用し、実践力を磨く				
達成目標					
授業時間外に必要な学修					
テキスト					
参考書					
成績評価(割合)	実習施設評価				
授業内容とスケジュール					
1回	オリエンテーション				
2回	実習について、心得				
3回	現場実習				
4回	現場実習				
5回	現場実習				
6回	現場実習				
7回	現場実習				
8回	現場実習				
9回	現場実習				
10回	現場実習				
11回	現場実習				
12回	現場実習				
13回	現場実習				
14回	現場実習				
15回	振り返り				
備考					

授業科目	総合研究Ⅱ				
	対象学科	開講時期	必修・選択	授業形態	単位数
	動物看護学科 3年課程	3年次通年	必修	講義・演習	6単位
担当教員	田中 里香				
実務経験歴	獣医師免許修得、小動物臨床従事				
授業目的	これまで学習してきた動物看護だけでなく、愛玩動物、実験動物、展示動物など様々な飼育形態に対応した飼育技術をみにつける また、これまでの学習を生かし研究発表をおこなう				
達成目標	目的に応じた認識、技術を深める。また、これら知識、技術をいかし、研究発表をおこなう				
授業時間外に必要な学修					
テキスト					
参考書					
成績評価(割合)					
授業内容とスケジュール					
1～2回	オリエンテーション				
3回～9回	研究テーマについて				
10回	研究テーマ決定				
11回～15回	研究方法				
16回～20回	研究準備				
21回～110回	個別・グループ研究				
111回～115回	発表準備				
116回～120回	研究発表				
備考					

授業科目	就職試験対策				
	対象学科	開講時期	必修・選択	授業形態	単位数
	動物看護学科 3年課程	3年次（前期）	必修	講義	2単位
担当教員	東田 大樹				
実務経験歴	各種学校における就職支援に10年従事 年間約300コマ以上講義				
授業目的	社会人として社会で活躍するために一般的な常識や必要な知識について、就職筆記試験を通して学ぶ。				
達成目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 様々な就職筆記試験の問題を知る。</li> <li>・ 就職筆記試験対策として、どんな準備をすればよいか理解し、行動できる。</li> </ul>				
授業時間外に必要な学修	日頃から社会で起こる出来事に興味関心を持ち、幅広い知識を探求する。				
テキスト	ファーストボイスオリジナルテキスト				
参考書					
成績評価(割合)	期末試験（100%）				
授業内容とスケジュール					
1回	筆記試験概要説明、模擬試験	16回	非言語（推論）		
2回	模擬試験解説	17回	C A B		
3回	言語（二語の関係）	18回	G A B		
4回	非言語（計算基礎：四則）	19回	公務員 一般知能分野（判断推理）		
5回	言語（熟語）	20回	公務員 一般知能分野（判断推理）		
6回	非言語（計算基礎：少数・分数）	21回	公務員 一般知能分野（数的推理）		
7回	言語（読解力）	22回	公務員 一般知能分野（数的推理）		
8回	非言語（計算基礎：1次関数）	23回	公務員 一般知識分野（社会分野）		
9回	非言語 （計算基礎：文字を使った計算）	24回	公務員 一般知識分野（社会分野）		
10回	非言語（速さ）	25回	公務員 一般知識分野（理科分野）		
11回	非言語（濃度）	26回	公務員 一般知識分野（理科分野）		
12回	非言語（割合・比）	27回	一般常識		
13回	英語（単語・熟語）	28回	一般常識		
14回	非言語（推論）	29回	試験対策		
15回	英語（文章読解）	30回	期末試験・振り返り・総評		
備考					





























































































